



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 39 号 2015/6/10 発行）

◆◆ <<http://www.iima.or.jp/>>



◇1. 理事長 行天豊雄 コラム◇

◇ もう一回、発想の転換を ◇

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20150610gyoten.pdf>>

去年の暮れからこう着していた円ドル相場がまた円安に動いている。表向き
の解説は、イエレンFRB議長が「年末迄のいずれかの時期に」金利
引上げがありうると言明した…

◇2. 特別研究員 小林敏雄 コラム◇

◇ 人民元の国際化とSDR ◇

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20150610kobayashi.pdf>>

中国がドルを基軸通貨とする現在の国際通貨制度に批判的であることは、
様々な機会に表明されてきた。2009年3月には周中国人民銀行総裁が論
文を発表し「外貨準備資産が…

■ ホームページ 「IIMAの目」 ■

「IIMAの目」と題する短編コラムを、ホームページ最上部にて毎週初
更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<http://www.iima.or.jp/index.html>>

1. 「原油の供給過剰は当面継続か」
2. 「不透明さを増すトルコの政治・経済と総選挙の行方」

■ IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新 ■

<<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

≪掲載内容≫

- IIMA Global Market Volatility Index
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

1. 「着実に金融深化するラオスの銀行セクター」 加藤 淳
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_16_j.pdf>
ラオスは、金融発展の水準が ASEAN の中で最も低い国の一つであるが、2008 年頃より外国銀行の進出と相俟って、銀行セクター全体の金融サービスの拡充・近代化がみられ、着実に金融深化が進展している。

2. 「G20 新興国のガバナンスと金融 ～アジアインフラ投資銀行 (AIIB) を例に～」 湊 直信
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_15_j.pdf>
国際金融界の注目を集め、日本の参加の是非が問われている AIIB。慎重論者のキーワードは「ガバナンス」だが、ガバナンスの問題とはいったい何なのか、なぜそれが問題なのか。本レポートは、OECD-DAC が定めた国際機関の活動における「やっていいことと悪いこと」の規準を軸に、AIIB の課題を論じる。

3. 「Recent Movements of Asian Bond markets」 秋山 文子
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_12_e.pdf>
Newsletter2015 年第 12 号の英文版

4. 「IMF の特別引出権 (Special Drawing Rights : SDR)」 佐久間 浩司
<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2015/270_j.pdf>
5 年毎の SDR 構成通貨見直しが来年に迫る中、世界の注目は人民元がそこに入るかどうかにかき集まる。本稿では、そもそもの SDR の意味や今日の金融安定への貢献を解説するとともに、中国が関与することの意味や課題を論じる。

木々の緑が濃くなって参りました。

英国が 3 月に加盟を表明してから一段と世界の注目を集める「アジアインフラ投資銀行 (AIIB)」が、世界、正論、VOICE、WEDGE など月刊誌の 6 月号でこぞって採上げられたので、お読みになられた方も多いかと思えます。AIIB は今月中に出資比率、理事構成などを固め、年内の設立を目指し、各国審議のステップに入ります。これまで設立理念や目的も曖昧な中で、中国政府が中核となることだけが唯一決まっているという「国際機関」に 57 ヶ国もの国々が賛意を示すという見慣れない光景の中で、日本政府は米国政府との協調も意識しつつ、当面これに参加せずに外部にとどまるとの判断を下しました。もちろん、今後 AIIB が「中国の夢」を実現するための特別機関としての色合いを薄め、日本国の立場から参

加意義が高いと判断されるに至れば参加再検討が可能でしょうが、それまで当面、積極の様子見として、今後は別の舞台で二国間関係を暖める努力を重ねる流れになりそうです。

その中国では、特に4月以降、景気減速の懸念度合いが強くなってきています。实体经济は注意が必要な状況が継続しています。株式市場は大いに活性化していますが、投機的な市場の域をまだ脱していないようにも見えます。今月はドイツでG7が開かれます。中国经济や人民元交換性についても意見交換が行われる可能性があります。5月に関連するレポートを3本リリースしましたが、IIMAはこの先もこれら動向を注意深く見て参ります。

今月は、ジョーンズホプキンス大学およびスタンフォード大学から2名のインターンを迎えます。約2か月の短い期間ですが、新たな交流がお互いに良い刺激となることが期待されます。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/maimagazine.html>

【次号】

2015年7月14日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧にはAdobe Readerが必要です。

Adobe Readerのダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-2 三菱東京UFJ銀行日本橋別館12階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.